

# 福居



# vol.103

発行日：平成16年9月30日

発行者：清川卓二 編集者：石川裕夏

発行所：福井商工会議所青年部コミュニティの鍵委員会

福井市西木田2-8-1 TEL：0776-33-8253 FAX：0776-36-8588

<http://www.fcci.or.jp/freg/>



「日刊県民福井」



## CONTENTS

- ごあいさつ
- 活動報告
- 福井豪雨災害ボランティア活動
- 福井 YEG メンバーが関わる NPO 特集
- 西木田通信
- 新会員紹介

# 「30年後の未来に向けて！」

福井商工会議所青年部 会長 清川 卓二

みなさんこんにちは。本年度は、スローガン「30年後の未来に向けて！ステップアップ YEG」を掲げ、前半を走ってきました。

しかし、7月18日の福井豪雨により商工会議所をはじめ、福井の街が大きな被害を受けました。30年後どころか、明日をも分らない状態が続きました。我々もボランティアに参加し、その中で言葉を越えた交流や利害を越えた関係が、被災者の方、全国より集まったボランティアの方との間に生まれました。まさに、30年後につながる新たなコミュニケーションです。そんな中でも、福井 YEG の活動は、DNA を進化させながら進んでいます。「さくらプロジェクト」「秋の収穫祭プロジェクト」が立ち上がり、県やイタリアンシェフとのコラボレーションが進んでいます。例会では、「補助金」や「大学との連携」といった地域資源の有効活用を学びました。そして、「近畿ブロック大会」、「ハイウェイビジネス交流会」等では、県外のネットワーク強化や情報収集・発進によるビジネス拡大を図りました。また、「ふくい市民会議」では、市民実行委員会（YEG、JC、経済同友会）による「30年後の福井について」市民一体となって考えました。

このように、福井 YEG は、各委員会を中心に DNA を進化させ、ネットワークを拡大し必要とされている領域を確実に広げています。

京セラの「アメーバ経営」というものがあります。必要に応じて組織がくっつき、役目が終わったら分離し、また、必要に応じて大きさ（組織）を変えようといったものです。福井 YEG は、自然にこの手法を実施し、更に進化し続けている組織だと思えます。これは、30年間の信頼・安心・人脈といった社会関係が、大きな福井 YEG の財産となって、我々に引き継がれていることで強く感じます。

来年1月には、30周年記念事業があります。この「福居」にて、前半を振り返り、後半の活動にステップアップしましょう！30周年の未来に向けて！



## 時代行列



平成16年4月11日(日)に時代行列が行われました。前日10日(土)には友田副会長と村中副委員長が FBC ラジオに出演。福井 YEG がこれまで取り組んできた足羽河原の桜の延命事業など、福井 YEG が足羽河原の桜にかける思いについて、熱く語ってくれました。例年通りわが青年部は「幕末明治隊」。清川会長扮する松平春嶽公を始め、各メンバーが張り切ったの参加でした。

まじくりの舞委員会 松井良平

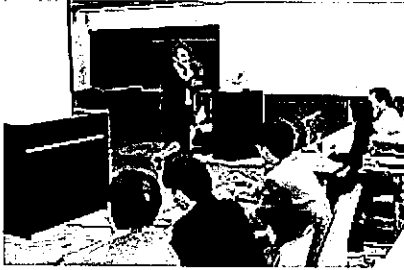
というのも、今回は仁愛学園ダンス部の協力により、きれいだころの5名の女子大生の皆さんと、事前の振り付け指導から、街頭パフォーマンス、終了後の2次会までお付き合いいただき、大いに花を添えていただきました。さすが青年部と思っことは、何事にも妥協を許さず、短い時間の中で清川会長による厳しい？寸劇の練習や、元警察官・松田副委員長によるチャンバラ指導など、普段見ることのできない青年部会員の一面を見ることができ、その他台詞の音入れ、ダンス、入場の仕方に関するまで練習を重ね、本番では酒井福井市長を始めとする多くの福井市民の前で、大いに青年部のパワーというものを見せることができたのではないのでしょうか。また、当日は多くの青年部会員、OBの方が街頭から応援してください、一緒に足羽河原まで歩いてくださる方、家族で見に来てくださった方など多くの方が青年部メンバーの勇姿を見守ってくださいました。最後になりましたが、当日様々な形で協力していただいた会員の皆様、その他ご協力いただきました皆様本当にありがとうございました。

## 4月度例会

平成16年4月28日(水) 福井商工会議所ビル 地下国際ホール  
「あの感動をもう一度...そして今年も」  
総務委員会 佐竹正博

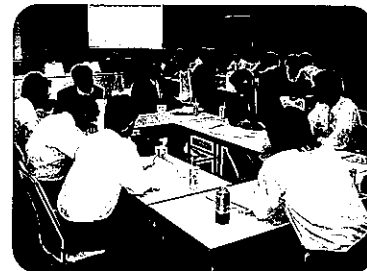
まず定期総会では、平成15年度事業報告並びに決算承認の件(監査報告)・平成16年度役員(理事・監事)の変更(案)の件・平成16年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件  
の議案が審議され全て原案通り可決した。その後平成15年度会長の林洋三君より退任挨拶があり、1年間の労をねぎらう意味で花束の贈呈も行われた。  
総会終了後、4月度例会を「あの感動をもう一度...そして今年も」というテーマで実施した。

平成16年2月13・14日に実施した全国会長研修会(以下全会研)は大成功に終わった。しかしながら大半の会員は裏方に廻りその全貌を観ていない。従ってビデオを観たいと思われる会員が多いため、旧広報委員会が撮影編集したビデオ(約1時間)を鑑賞し、あの感動をもう一度味わい、平成16年度活動のエネルギーにしようという意味で実施した。前泊者交流会・式典・分科会・大懇親会・大賞発表の各パートに分かれ当時の責任者から説明コメント入りで鑑賞。原因不明の音声ノイズが入るトラブルがあったが、参加者は2ヶ月前の感動を再度味わったようであった。  
また、それを受けて平成16年度の各委員会の活動方針計画を発表する場が設けられ、新委員長が今年にかけける意気込みを熱く語った。



## 5月度例会

平成16年5月26日(水) 福井商工会議所ビル 地下国際ホール  
「成功例・失敗例 我が社にとっておき... YEGメンバーに限り公開します」  
ビジネスの鍵委員会 上松悦志



全国会長研修会ふくい会議で発表された「ビジネスの鍵宣言」の中の第一項目「頑張る姿をさらけだし、儲かる仕組みを共有し、食欲に想いをぶつけ合え」を実践する場所として開催されました。はじめに自社の良いところ(強み)、悪いところ(弱み)についてディスカッションさせていただきました。パネラーとして、清川会長、林直前会長、私、上松で行いました。続いて、参加者がテーブルに分かれて、ディスカッションを行いました。  
パネルディスカッションでは、清川メッキ工業でしかない特殊技術や、住み替え情報館での、社内連絡方法などユニークな内容が披露されました。  
続いてのテーブルディスカッションの中で参加者からは、自社の経営での成功例や、失敗例、工夫しているところ、社員教育内容について議論がなされました。内容としては、社員に責任と自信を持たせる意味で、1つの仕事を任せているとか、情報をオープンにするのはいいが、限度があり、他の顧客の情報の安全はどうしているのかなどの意見がありました。

結論として、やはり、他社では真似の出来ない技術、スピード、常に新しい発想、サービスなどが要求されていて、勝ち組みになるにはそれが必須事項であると考えられました。  
この例会が、YEG 会員企業の益々の発展の為に参考になればと考えております。

### 第1回YEG塾

日時 平成16年6月3日(木)  
場所 福井商工会議所ビル E会議室  
ビジネスの鍵委員会 吉田晋造

中小事業者向け  
簡易版環境マネジメントシステム  
「H16年環境マネジメントシステム」  
セミナー

「21世紀は環境の時代」と言われ、行政・企業・個人のあらゆるレベルで環境対策が求められています。特に企業にとっては、「環境への配慮」が、企業ブランドや信用力の向上に大きく寄与する重要課題となっております。今回のYEG塾では、ふくい環境向上支援センターの方を講師に迎え、簡易版環境マネジメントシステム「エコアクション21」について特別に講義をしていただきました。

「環境に配慮した事業者」という武器を手に入れ、儲ける仕組みを共有することができればと思います。  
※「エコアクション21ふくい」について  
中小事業者向けの環境マネジメントシステム規格として昨年11月に創設。取組費用が安く特徴として、①ISO14001よりも環境への取り組みが具体的に簡易  
②企業の環境活動の継続的改善(継続的発展)を重視  
③資源・エネルギー使用の合理化等を通じて経営改善に役立つ  
④システム導入・計画策定・運用・評価の各段階で指導が受けられる  
等がある。



### 6月度例会

平成16年8月23日(水)  
福井商工会議所ビル 地下国際ホール  
「知らないなや損!!」  
アントレプレナー助成金・補助金活用事例  
ビジネスの鍵委員会 山本直恵

公的機関が強化・推進している、起業や雇用を促進する様々な支援体制の認知度、利用度合いを高めるため、「アントレプレナー助成金・補助金活用事例」をテーマに、支援・サポートをしている公的機関、団体の窓口の担当の方から支援事業の紹介と活用方法をレクチャーしていただきました。

江尻 慶一氏より「もっと活用しよう!福井県産業支援センターの上手な使い方」、福井商工会議所 商工相談所 次長 峠岡 伸行氏より、助成金・補助金活用の仕方についてのレクチャー、そして、株式会社福井製作所 代表取締役社長 中川 芳男氏より「中小企業オーナーの助成金・補助金の体験的活用法」を話していただきました。利用しなくてはもったいないと思うような内容のものもあれば、利用するには様々な問題をクリアしなくてはいけないという課題も生まれ、参考になりました。特に中川氏の講義では、助成金・活用の申請にあたり、いろいろなヒントを与えていただきました。考え方、やり方次第でどんなもの・ことにも適応する助成や補助があるということですので、P.S. 出席数が多かったこともよかったです。

### 第2回YEG塾

日時 平成16年8月24日(火)  
場所 福井商工会議所ビル E会議室  
ビジネスの鍵委員会 吉田晋造

「苦情・クレーム博覧会の「1」体験」  
「一つのクレームからビジネスの鍵無限大」

苦情・クレーム博覧会では、効果への期待が注目されている「苦情・クレーム博覧会」。第2回YEG塾では「一つのクレームからビジネスのアイデア無限大」をテーマに、商工会議所産業界技術課の指導により、インターネットのWEBサイトから、実際に苦情・クレーム博覧会に寄せられた苦情・クレームを閲覧した。クレームをビジネスストーリー(ビジネスの宝)とみなして、インターネット上で募集・公開している。また、苦情を解決する製品を募集し、「苦情・クレーム『解決』博覧会」として、10月14・15日、北陸技術交流・テクノフェア会場で発表する。



### 8月度例会

平成16年8月25日(水)  
プランカ  
「大学を知ろう!YEGを伝えよう!!」  
「YEGを伝えるYEG」大学ネットワーク!!  
ビジネスの鍵委員会 中村誓介

本例会は、地元福井大学のベンチャービジネス支援活動の理解とその活動を如何にYEG会員企業の経営革新に結びつけるかを主たる目的として開催されました。福井大学からはベンチャービジネスラボラトリー長である小林喬郎教授、地域共同研究センター副センター長の山本高勇教授、小坂コーディネーター、そしてアントレプレナーを目指す博士研究員2名をお招きし、ベンチャービジネスラボラトリーにおける研究課題や地域共同研究センターの活動紹介、個別研究テーマの発表をいただいた後、引き続き開催された交流会で親睦を深めました。

福井大学による個々の発表の中には、専門性が高く「研究シーズ」と「企業ニーズ」のマッチングを目指すというよりは、「研究シーズ」の一方的な発表に終始したものもあり、本例会企画当初に危惧された「大学の工業系を中心とした研究と商業系を中心としたYEG企業のビジネスでは、相互の交流は困難である」という不安が正に的中した感もありませんでした。しかしながら、大学側が学術研究のための研究というスタイルを脱し、より実用的な、儲けのための研究に視線を移してきている現状下、我々YEG企業側が「大学の研究を知ろう、活用しよう。」というチョットした意識を持つだけで、YEGと大学の連携によるビジネス実現の鍵を見つけないことができるものと考えます。



本例会はYEGによる産学連携実現のキッカケに過ぎません。

### H16年度「YEG & イッチョライ・オドロツサ」チーム



今年度の「YEG & イッチョライ・オドロツサ」のチームは、例年同様、YOSAKOIイッチョライに参加したいけれど、どのチームに入ったら良いかわからない方などの為のチーム設定を基本としました。そして、入賞を狙うというより、和気藹々とした中でYEGメンバーと多くの一般参加者が、気楽にイッチョライを楽しみ、イッチョライの良さをより多くの人に知れわたるよう努めました。また、チーム参加者の中から、将来、独自のチームリーダーが育つようにチーム運営経験の勉強の場にもなるようにも努力したつもりです。

これを機に両者の交流を深め、将来の福井経済活性化の一助にできればと切望します。

### 近畿フロック大会 参加報告

8月28日に近畿ブロック大会 吹田大会に参加してきました。  
28日当日、参加者が時間通りに集合。幸先がいいと思いつながり早速出発しました。出発後3分ほど経った

とき竹下さんが「おい、松本さんがバスに乗っていないぞ」と言い出しました。確かに松本さんの姿が見えず、松本さんの荷物だけがバスに残っていました。なんとトイレに出ている松本さんを置いて出発してしまっただけです(幸先悪かった)。

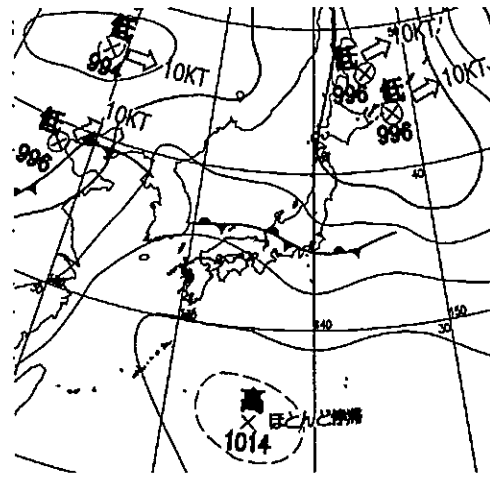
松本さんを乗せて吹田に向けて再出発。車中では30周年記念事業の参考にしておらおうと25周年記念事業のビデオを参加者に鑑賞してもらいました。映像は5年前の「若く痩せている」会員の方々の様子を冷静に写しだしており、又その当時の会員の奮闘ぶりも伝わって来ました。そうこうしているうちに、ほぼスケジュールどおり吹田に到着。

「平成16年7月福井豪雨」とは…

平成16年7月17日の夜から18日にかけて、日本海から福井県に延びる梅雨前線の活動が活発化したことにより短時間の記録的な集中豪雨に見舞われ、福井市を中心に、美山町、鯖江市、今立町、池田町などで大きな災害が発生しました。

特に、18日朝から昼前にかけて非常に激しい雨が降り、美山町では総降水量が285mmに達し、7月の月間雨量平均値(236.7mm)を上回る等局地的に非常に激しい雨で、福井市においても198mmの雨を観測しました。また、最大1時間降水量でも、美山町で96mm、福井市で75mmといずれも観測史上最大の雨を記録しております。

足羽川では、7月18日10:00に指定水位(500m)を越え、同日13:45には足羽川木田橋左岸春日地区において幅約56mにわたって堤防が決壊したのをはじめ、複数の河川で堤防の決壊や越水が発生し、美山町小和清水の鉄橋など足羽川に架かる鉄橋が5橋流されるなど、各地において深刻な被害が発生しました。

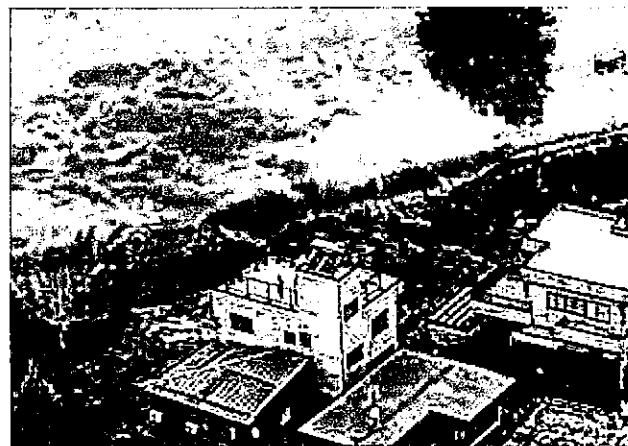
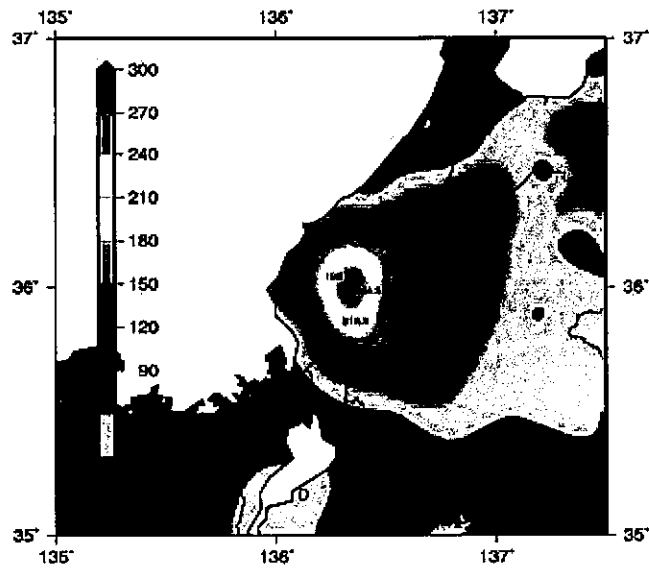


7月18日9時の地上天気図  
(資料提供：気象庁)

人的被害および住宅被害も非常に大きく、人的被害では、死者4名、行方不明者1名、負傷者19名(内重症4名)であり、住家の被害は、全壊66世帯、半壊135世帯、一部損壊229世帯、床上浸水4,052世帯、床下浸水9,675世帯、避難者は9,141名にのぼり、避難勧告・指示は延べ41,944世帯121,681名に出されました。

今回の雨は、過去に例のない集中豪雨であり、気象庁は今回の雨を「平成16年7月福井豪雨」と命名いたしました。

福井県周辺の総降水量  
(7月17日15時～18日24時)  
(資料提供：気象庁)



集中豪雨で決壊した足羽川堤防  
(福井市春日1丁目 18日13時20分)  
(資料提供：気象庁)

今回の集中豪雨は、福井県嶺北一帯に大きな被害を及ぼしましたが、災害発生の日から全国から、福井市・鯖江市・美山町・今立町・池田町のボランティアセンターに延べ60,208人と多くのボランティアが駆けつけ、全国から、多くの支援物資や義援金などが寄せられました。

YEGでも当人、親戚、知人など被災しているにも関わらず、清川会長を筆頭に多くの会員が炎天下の中、砂埃にまみれながら被災者宅から出る廃材や泥のかき出し、粗大ゴミや家具の移動・撤去など御協力いただきました。

また福井 YEG から独立したイッチョライ NPO からも、チームのリーダーの方や踊り子の方が、YEG と共に被災したチームの地区のボランティアに多数参加するなどイッチョライだけではなくチーム間の交流や結束など、普段あまり感じる事が出来ない力強い絆を知ることが出来ました。

このたびの福井豪雨により被災されました YEG 会員ならびご家族の皆様にお見舞い申し上げます。

(コミュニティの鍵委員会 郡谷 宏 邦)

でいっぱいでした。受付付近に福井豪雨の義援金募集のコーナーもあり感謝!!。式典オープニング映像はプロジェクトX風で、なかなか素晴らしいものでした。主催者、来賓挨拶の後、単会紹介・次回開催PR等もどこおりに行われました。

式終了後、記念講演として吹田 YEG 企画の演劇が行われました。「講演会となる誰と聞かない」という悩みを解消するため吹田 YEG が知恵を絞った画期的な手法ではなかったかと思えます。内容は大阪万博の街・吹田を舞台に中小企業が抱える問題を、笑いあり涙ありで描いていました。「景気が悪い」「優秀な従業員の確保ができない」「親戚から保証人を頼まれて断りにくい」といった悩みを抱えながら、商売仲間が力を合わせて夢を実現させるといふシンプル(悪く言えば単純)なストーリーながら、これがなかなか見せる劇でした。劇中には清川会長も観光客のエキストラ役で出演しロバート・デ・ニーロばりの名演(エキストラの中では一番目立っていた!)を披露していました。

続いて分科会が開催されました。私の参加した第2分科会は「美人ガイドと行く万博の街吹田市内見学」でした。バスに乗ると既に友田さんと大草さんが一番前の席を陣取っていました。友田さんと大草さんは県連の藤堂会長と共に、元スチュワードスのきれいなガイドさんに盛んに質問するなど猛アタックをかけていました。おかげで「福井県の方はノリがいいですね」とおほめの言葉まで頂きました。分科会はいずれのコースも万博公園を中心に組まれており、幼い頃万博を経験した年代が多い YEG メンバーは懐かしい思いをもって参加できたのではないのでしょうか。

その後の大懇親会では吹田市内の4大学の吹奏楽、コーラス演奏、チアリーダー演技などが披露され大いに盛り上がりました。又他の単会、商青連の方々の親交が図れたのではなかったでしょうか。

帰りのバスの中では会長研修会のビデオが流されました。みなさん眠って見えていないのかと思いきや、みんな真剣に見ており、あのかの感動がよみがえっているようでした。そして福井に深夜0時に戻ってきました。

11月には帯広で全国大会、2月には岡山で会長研修会があります。今回来れなかった方もぜひご参加下さい。

総務委員会 佐竹 正博

去る平成16年9月4日(土)滋賀県彦根市にて第5回ハイウェイビジネス交流会が開催されました。この交流会は名神高速道路 北陸自動車道 東海北陸自動車道の3自動車道が繋がったことに着目し沿線及びその県内の YEG の連携を深め、新たなビジネスチャンスを広げたい、各事業所の活性化を図ることを目的としています。

当日10時に会議所を5名で出発。文字通り北陸名神のハイウェイを一路会場の彦根プリンスホテルに向かいました。そのホテルは、個人的に学生時代参加した鳥人間コンテストの会場横という事もあり懐かしい思い出が蘇って来ました。

ホテルでは新入会員の山岸さん(林不動産鑑定所)が現地集合で先に来ており合計6名での参加となりました。開催地テーマ「彦根とコラボレーション」ということでまず分科会に参加。

第1「産業」 ネットビジネス成功例講演 近江商人の真髓  
第2「歴史・文化」幻の名窯「湖東焼」講演 製作体験「彦根と湖東焼」講演  
第3「環境」TMO実施地区探訪 近江牛&鮎試食

とあり、私は第1に参加。WEB上でジッポライターの販売を手がける和田裕行氏から、学生時代ダイエー



で安く買った1つのジッポライターを何気にWEBで販売し即売ってしまったのがきっかけで、このビジネスを始めたことや、これまでの苦労話やWEB販売ビジネスのノウハウを織り込みながら現在に至るまでの事の講演をしていただきました。WEB販売で成功したければ「2年は我慢」「普通の店舗販売と同じ感覚で十分な投資(広告等)が必要」「商材にマニアックなまでの知識習得」など頭に残る内容でした。

式典の後グループディスカッションでは、先ほどの分科会でのテーマでの感想から、今後の自社のWEB戦略まで異業種の方が話し合いを持ち最後に分科会代表1名がまとめた発表を実施。

懇親会は、椅子に座って席が近くの別単会の人たちとの十分な交流と、地元彦根の名産を景品にした彦根をさりげなくアピールする手作りのゲームで楽しい時間を過ごしました。

最後に全国大会、ブロック大会など大勢の人が集まる大会も良いですが、こういうこじんまりとした手作り風の交流会も等身大で心地よかったです。

第5回  
ハイウェイビジネス交流会  
平成16年9月4日(土)  
彦根市 彦根プリンスホテル



福井豪雨ボランティア活動報告

7月19日

福井YEGとして公式に活動が始まりました。参加者は活動内容を把握できていないところもある中スタートしましたが、YEG会員で福井市議会議員の堀川君の現場での指示・判断能力のおかげで、迷うことなく活動を開始することができました。

実際ボランティアの現場には、仕事の合間の休日を返上し駆けつけてくれた名古屋の方や、福井県内の若い方と、ボランティアとして一日の行動をともにでき、彼らの意識の高さには頭が下がる一方でした。

7月24日

7月例会にてボランティア活動の体制を整えて、福井YEGとして本格的な活動が開始しました。

22日から24日までの3日間は、主に月見地区、みのり地区、おさこえ民家園周辺地区の清掃活動を行いました。猛暑のため日を追うことに町は悪臭に包まれ、想像以上に過酷な作業となりました。

7月25日

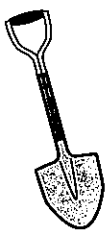
25日(日)は、美山の折立にいてきました。炊き出し隊、福井YEG9名と香川県連YEG2名により、讃岐本場の麵打ち職人が作ったそうめんを地元の人とボランティアの方に炊き出しをしました。折立の被害状況は、とてつもなく、行くまで



に橋が2本決壊し、スコップより、ブルドーザーが、ボランティアより自衛隊が必要な地域でした。それでも、日曜日は、130人のボランティアが結集し家の中を言うより、道路の土木作業に近い作業を続けていました。そんな中、

中には、精神的に癒された、元気がでたと嬉しい言葉をいただきました。香川YEGのみなさんありがとう、福井YEGのみなさんありがとう！

その他、一条地区、朝倉氏遺跡周辺やボランティアセンターなど、多方面でYEGメンバーがボランティア活動に参加して頂きました。皆様のご協力本当にありがとうございました。



7月度例会

平成16年7月21日(水) プラシカ

「福井豪雨 災害復興例会」

ステップアップ委員会 高木秀樹

7月21日は三単会交流会を当初予定していましたが、体力測定を行い、自分自身を見つめなおす機会を設ける予定でした。

ところが福井豪雨により、この企画はいったん水に流され7月例会は、急遽福井豪雨の被害から復興するために、YEGとして何が出来るのかを真剣に討論する会に変更となりました。

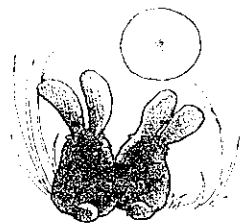
前日まで三単会交流会を行う方向で調整していましたが、執行部会での慎重な判断の上7月例会の内容変更となりました。清川会長も苦渋の判断であったと思います。

例会当日はボランティアにて、対策会議を開催しましたが、ボランティアに対する考え方や、YEGとしてどのように関わるべきなのか、など活発な意見が交わされました。

「押し付けのボランティアにはなっていないか」「あくまでもボランティアは自己責任で行うべき」「商青連、全国のYEGに情報を発信しよう」などなど。当日の成果としては、翌日より1週間のボランティア活動の行動予定と連絡体制が決定。

例会当日には、会長、副会長よりボランティア活動の現状報告をいただき、被害の悲惨さと、ボランティア活動の現状を生々しく報告いただき、YEGメンバー全員の意識が変わり同じベクトルで、ボランティア活動に取り組み準備が整いました。

豪雨によって水に流れた三単会交流会は、11月24日に開催が決定しましたので、体力測定を心待ちにしていた皆様は奮ってご参加宜しくお願いします。



福井YEGおよびそのOBの理事

○正式名称：特定非営利活動法人 イッチョライNPO
○設立年月日：平成16年3月30日
○役員数：【チーム登録数】：70チーム
【正会員数】：58名
【イッチョライ会員数】：大人140名 子供102名 合計242名
【賛助会員数】：104件 合計346名

○活動内容、活動紹介
一言でいうなら、「YOSAKOI イッチョライ」をより一層普及させ、この福井の地に根付かせること、そして将来「福井県を代表する祭り」にすることを目標に活動している団体であります。具体的には、夏の「フェニックスまつり」を舞台に繰り広げられるYOSAKOI イッチョライ(ちなみに昨年の「第50回福井フェニックスまつり」第5回YOSAKOI イッチョライ)には、86チーム・500名が参加)の企画運営への協力。NPO主催で行う「独自会場」の創設(只今、平成16年10月23日第1回目の祭り開催にむけて鋭意企画中)。その他、年間を通じて展開されるYOSAKOI イッチョライ関連の諸事業を、行政を含む各種団体および企業などと協調・協力体制を取りながら活動を行っています。

組織としては6つの部会で構成されていて、各事業に対して役割分担し連携を図りながら執行を行っています。

- ・総務部会：会議運営、事務連絡、事務局管理、他部会に属さない全ての事項
・企画部会：全体事業企画、各部会の取りまとめ
・運営部会：運営スタッフ活動、計画・実施
・推進普及部会：推進普及活動、ポスターコンペ、フォトコンテストなど
・広報部会：「オフィシャルガイド」の編集・発行、ホームページの更新など
・交流部会：交流会の企画・運営、新参加チームのフォローなど

大切なのは、これらの部会に所属している大半の人はNPOに加入しているチームの踊り手であるという事。そして、一般募集の呼びかけに心えてくれた県民市民、さらには県外の方々であるという事実です。このお祭りは、これらの方々を支えられながら一歩一歩目標に向かって着実に成長していけるものと確信しています。

もちろん、30年後も「YOSAKOI イッチョライ」がちゃんと続いていて、人々の生活の中にすっかり溶け込んでいけるであろう事を期待します。あくまで「祭り」がNPOのテーマ。そして、そこに映し出されるのは大勢の「人のありさま」です。自身のロジックやイデオロギーにとらわれ振り回されることなく、人々が何を望み何を求めているのかをしっかりと見つけ、そのときの時代に合った祭り作りをしていくべきではないかと考えます。



「おじいちゃん はね、お前が生まれるもつと前のお祭りが始まった頃はお...」なんて、僕も孫

福井YEGおよびそのOBの理事

○正式名称：特定非営利活動法人 起業支援センター
○設立年月日：平成15年11月12日
○役員数：正会員11名(最高齢83歳!)
○福井YEGおよびそのOBの理事
理事長 高原 裕一
副理事長 堀川 秀樹
監事 蓮花 慶子

○活動内容、活動紹介
【理念・目標】
市民を中心とした様々な人材の柔軟な発想、行動力、そしてネットワーク構築力を発揮して、
■会員自らの起業および再起業、経営革新を促進するとともに、
■起業家を目指す人びとへの支援と若年層・女性層に対する啓蒙活動を行うことにより、
福井県内における開業率、廃業率の逆転現象を平成25年度までに再逆転し、活力ある地域経済の発展に貢献することを活動の理念、目標としています。

- 【活動内容】
①起業家マインドの育成や起業ノウハウ・知識を修得する事業
●起業、経営革新をテーマとしたディスカッション、勉強会、研修会の企画運営
●学校教育の現場で起業家(企業家)意識を高めるための授業展開
②市民エンジェル(個人投資家)の仕組みを研究し実現化する事業

● 地域貢献性の高いビジネスプランに対して市民が直接投資する仕組みを構築するための研究とその制度を構築する事業

③ 起業家能力認証・起業家マッチング事業  
● 起業家能力（起業家としての資質・能力）について客観的指標に基づき認証する制度の研究と起業家としての資質・能力を求め企業に対して適正な人材を提供する人材マッチング事業

④ 既存企業の経営革新度を起業家の視点で判定する仕組みの研究と導入  
● 経営革新の度合いを（世の中に新しい価値を提供する）起業家の視点で客観的に判定する仕組みを研究し、導入する事業

⑤ 起業支援機関との連携・支援機関への提言  
● 国・県・市などの行政や各種経済団体が行っている起業支援活動への提言や助言とこれらの機関との連携を促進することによって、より実効性のある制度にする事業

【定例会】 毎月1回。その他必要に応じてプロジェクト毎のミーティングあり。  
【会費】 正会員（個人） 年会費2000円（入会金1000円）  
【その他】 「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことをおもしろく」が当NPOの活動ポリシーです。起業という難しく考えがちですが、やさしく、シンプルでそして、楽しくなければ続きませんし成功もおぼつかないでしょう。そういうことを常に活動の中心において行きたいと考えています。

【ご入会】 どなたでも入会可能。皆様のご入会を心よりお待ちしております。  
③0年後のビジョン：  
① 20〜30代および女性の起業率が日本一になっている！  
地域経済のダイナミズム（活力の源泉）は若者と女性が担うべきです。そのためにも、起業を促進することの意義を市民

えてそのような風潮に逆行し大量生産大量消費から逆行しハンドメイドに執着し日々の生活を創作意欲に注ぎ込む熱心な日本の伝統工芸士が（少なくともはなりませんが）日本全国にいらっしやいます。その人たちが創る物は言葉では言い表せない表情やぬくもりや奥深さを感じられ、さらに希少価値を生むものと思います。まずはその方たちの工程作業を見学することからはじめたいと思います

日本伝統的工芸品として認定されている品々が200以上全国にはありますが、まずは福井の伝統的工芸品を見て回る研修会を開く予定です。その品々にじかに触れ、作家の方々と直接語り作業風景を鑑賞し品物とその作り手や環境に対して理解を深めたいと思います。できれば初歩的な実演も経験させていただき、さらに自分の物にしていきたいと思えます。

そして、次に伝統的工芸品の技術・技法の発表、研鑽の場を設け、広く世間一般の方々にそのすばらしい品々を見ていただく展示発表会を開きます。気軽に見てもらおう機会が少ないので、幅広い年齢層に見てもらえるような展示会を考えていきたいです。そして伝統工芸士の方々の今後の活動応援、後継者の人材育成のためにも、創作工芸品販売会も兼ねた展示会を開催し需要開拓に努めていきます。

③0年後のビジョン：  
現在、各県の伝統産業とはと問いつけると、その県の産業の衰退した産業の代名詞になるような事態です。伝統という物は古い物を守るだけでは維持できないと思います。古い良き事は守り抜き新しい事を注入しながら育てていく。このことで伝統が半永久的に続いていくと思えます。

NPO法人の考え方自体30年後はもっと利益重視の法人に変わるように思えます。  
伝統的工芸品を後世に残していこうとするならばやはり物を見る目や理解する能力を育てていくことが大切です。そのためにも日本文化を大事にする機会を多く持ち、伝統工芸品の需要が大きくなることを希望いたします。

自らが自覚し、積極的に関心を持ち関わるることによって初めて成し遂げることが可能となります。大胆かつきめ細やかな活動を行うことができれば、かつての「社長輩出県日本一福井」が名実共に実現されるものと思えます。

② 高齢者の雇用率が日本一になっている！  
営利法人、非営利法人の垣根はだんだん薄れてきます。様々な起業の形により、様々な雇用形態が生まれてきます。30年後は高齢者が全体の3分の1になるため、彼らが（自分たちも含めて）生き生きと活動できるステージが用意されていなければなりません。地域における起業の促進により、高齢者雇用率を日本一にしたいと考えています。

【正式名称】 特定非営利活動法人 日本災害救援飛行協会  
【設立年月日】 平成13年5月13日  
【会員数】 23名  
【福井YEGおよびそのOBの理事】 理事 佐竹 正博

① 活動内容、活動紹介  
近年、福祉・環境・国際協力・まちづくり・災害救援活動など様々な分野においてボランティア活動が活発化しています。中でも災害救援活動の分野において、災害発生時の予知そのものが困難なことから、災害発生時の迅速なボランティアの初動体制を確立することが、被害を最小限に食い止めるために非常に重要です。その一方で、災害救援活動に災害時の道路交通網混雑の影響を受けにくい航空機を活用することは、初動体制の立ち上げに大きな時間短縮を見込むことができ、非常に効果的と考えます。



NPO災害救援飛行協会富山との合同救助犬搬送訓練(平成13年11月)

【正式名称】 特定非営利活動法人 ハートライセンス  
【設立年月日】 平成16年10月1日  
【会員数】 正会員 60名 賛助会員 30社  
【福井YEGおよびそのOBの理事】 理事長 道端 泰代

① 活動内容、活動紹介  
NPO法人ハートライセンスは平成15年10月1日に福井県より認証を受けて1年が経ちました。私共の活動目的は子供の健全育成、職業能力の開発を行う事です。多くの働く女性を支援し、キャリアアップ講座、資格取得講座、各企業様へのビジネスコミュニケーションセミナー研修等の活動を行っております。

福井県から初めて委託を受けて行った協働事業「心のバリアフリー」では、県内の障害者施設、老人ホームにお伺いし親子で体験を通して障害者の方々に対する理解を深めて頂くために、利用者の方と身体を動かしたゲームを行ったりしました。また、身体に重りをつけた疑似体験では子供達（小学1〜6年生までが対象）が高齢者の方や障害者の方の立場になり、歩行の体験をしました。参加した子供達は「体がすごく重かった。これからお年寄りを見かけたら優しく声を掛けて手助けしたい」と話してくれました。

この事業を通して精神的にも成長してゆく子供たちを見る事ができました。今年も福井県より委託を受けることができ、スタッフ一同楽しみながら準備に取り掛かっております。

③0年後のビジョン：  
現時点での親子の社会問題といえ、親子のコミュニケーションが少なくなっていること、子供の「しつけ」が出来ていないことなどがあげられます。昔に比べて、挨拶が出来ない、中学生になっても箸も持てない、食べ方が行儀悪いなどのお声を、教育者や高齢者の方から聞く事が多くなりました。私達は、子供の健全育成に必要なマナーを伝授し、より礼節高い人材作りを目指していきこうと、平成16年4月より「ジュニアマナー

これらをつまみ食い当NPOは、災害救援活動の分野において、航空機を運航してのボランティアをはじめ災害救助犬、救援物資等の運送などの社会貢献活動を行います。福井県初の災害救援活動分野のNPOとして、また全国初の小型航空機を利用しての災害救援活動を行うNPOとして、日本のほぼ中央に位置する福井県で全国へ災害救援する場合の位置的なメリットを生かしながら災害救援活動を行ってまいります。

以上、かたいことを書きましたが、元々は福井飛行クラブという飛行機が好きなもの集まりで、せっかく持っている特殊技能を少しでも社会の為に有効に役立てたいという願いからNPOの結成となりました。通常はクラブ形式の集まりで、青年部の方でも飛行機に興味ある方で免許が無くても気軽に入会して頂けます。すく興味がある方は免許の取り方等伝授致します。

③0年後のビジョン：  
・まず30年後に会が存続していること。  
・全国のアマチュア飛行家によるネットワークを作り、NPOを全国組織とする。  
・小型航空機の社会認知及び普及。

【正式名称】 特定非営利活動法人 日本伝統工芸品保存推進会  
【設立年月日】 平成16年8月26日  
【会員数】 11名  
【福井YEGおよびそのYEGの理事】 理事長 木村 幸生 監事 高原 裕一

① 活動内容、活動紹介  
今の時代、経済主義 効果第一主義で物事を判断する事が主流になっているような気がします。そこであ



「インスタラクター」を育成したいとしました。10月から、カルチャーセンター、託児所、公民館などで、インスタラクターが、子供たちに楽しく遊びながらマナーを身につけていただくように活動していく予定です。今後この普及活動が、全国に広がり、30年後は、また戦後の若者のように礼儀正しい人材が多く育っていきけたら嬉しいと思えます。

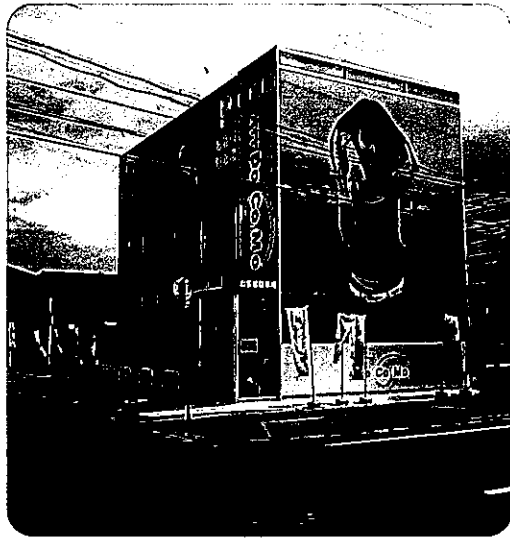
【正式名称】 街づくり家づくり応援隊・探郎ホームズ  
【設立年月日】 平成16年4月13日（認証日）平成16年8月26日（登記日）平成16年9月1日  
【会員数】 正会員 19社 賛助会員 2社  
【福井YEGおよびそのOBの理事】 理事長 石橋 正人（青年部OB） 事務局長 嵐 田 徹（元青年部）

① 活動内容、活動紹介  
探郎ホームズはもとと、家づくりの情報発信を目的にインターネットWEBサイトとして3年前にスタートしました。その間、建築基準法の改正などをうけ、エンドユーザーの家づくりに対するニーズの多様化が進みました。そこでそういったニーズにお応えするため、ホームページに限らず、様々なイベントやセミナー・講演会を開催し、情報発信に努めて参ります。そして家づくりを行なう上でプランニングや外観のデザイン

地元小学生招いての招待飛行(平成13年9月)

事務所移転

高木秀樹 会員  
『株 ソニック』  
坂井郡春江町江留上緑 28-2  
TEL 0776-51-8600



ご結婚

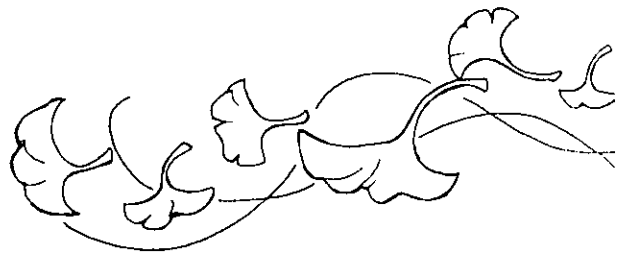
♥9月19日  
五十嵐 嘉紀君 と 順子さん(吉川)

ご結婚

♥9月23日  
河上 剛 志君 と 千里さん(田川)

ご結婚

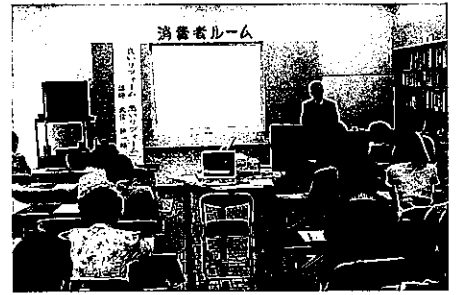
♥9月25日  
山越 大 輔君 と 千聡さん(大塚)



西木田通信

7月18日、福井豪雨、私にとって決して忘れられない日になった。  
泥水が溜まった会議所ビル地下のショッキングな光景を目の当たりにして、思わず言葉を失ってしまった。翌日から暑い中での復旧作業。泥に浸かった書類を次から次へと破棄していくたびに、会議所の、そして自分の歴史が失われていく気がした。  
そんな中で古い YEG の書類や写真を発見した。豪雨がなかったら永久に日の目を見ることがなかった書類たち。30周年の節目、そして次の30年後を考えた書類たち。30周年の節目、そして次の30年後を考へようとするまさにその瞬間に再生した。この巡り合わせに何か運命的なものを感じた。次の30年の何か役に立って欲しいーそんな思いで泥のついた書類を引きずり出し乾燥させた。  
あれから2ヶ月。大きな被害を受けた会議所ビルでは、連日、YEGの会議が行われている。特に30周年事業はこれからの佳境。これからはがんばって、ぜひ成功させましょう。

事務局 斉藤 芳典



などの相談はもちろん、土地に関することから資金相談まで、トータルにお手伝いできれば思っております。そこで、先イベントの第一弾として「3D体験会」を開催しました。これから家づくりを始めようとする皆さんのお客様が、夢のマイホームを自分なりにスケッチに描いてご来場されました。その場にて私

でもスタッフがパソコンを使って外観や内観をリアルな3D画像に立ち上げると、平面上ではわからない空間を体感していただき非常に好評でした。今後様々な形でこういったイベントを開催して行き、お客様の要望に応えていきたいと思っております。  
最後にNPO法人としてまだスタートしたばかりですが、地域住民の皆様が有益な情報発信と業界の活性化に全力で努めて参りますので、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。  
○30年後のビジョン：  
つい先日設立されたばかりの私たちにとって、30年後のNPO法人を語るのには非常に難しい問題です。これから様々な活動を通してどうあるべきかを模索していくことになるかと思えます。ただ、営利を目的としないNPOの活動は本来理想であり、各自自治体や企業とはまったく違った位置づけを持っています。収益性や事業性が大前提にあって行われる活動では想像できない奇想天外なアイデアや活動が生まれ、理想的な社会づくりが行われる基礎となるように思えます。もしかして30年後NPO法人の活動が現在の企業に成り代わって、社会の主役になっているかもしれない。ちなみに30年後にはNPO法人探郎ホームズがつくる、本当に住む人にとって理想の「街」をプロデュースしてみたいと思います。

○正式名称：特定非営利活動法人 福井まちなかNPO  
○設立年月日：平成12年8月28日  
○会員数：35人  
○福井 YEG およびそのOBの理事  
理事長 永井 弘明 (青年部OB)  
顧問理事 坂川 優 (青年部OB)  
理事 今川 治 (青年部OB)  
加藤 幹夫 (青年部OB)

○活動内容、活動紹介  
福井まちなかNPOは福井市中心部のまちづくりを研究、支援、実践しているNPOです。  
福井市は震災震災後、区画整理と道路整備を中心に都市を拡大し続けてきました。しかし人口が減少していく中でインセンティブのある郊外に開発が集中し、中心部から空洞化が広がってきています。このような現象は行政サービスを非効率なものにするだけでなく、財政破綻をきたすことにもなります。ここで私達はコンパクトシティを提唱しています。  
次に都心のまちづくりコンセプトが定まっていないうちに危機感を持っています。賑わいのある街をつくる為には都市計画、再開発等、ばらばらに考えていてはうまく行きません。数多く大失敗した他都市から学びながらトータルな都市戦略を提案しています。  
最後に魅力のある商業エリアづくりについては魅力のある店舗誘致が必要と考えています。それには商業立地条件の整備が不可欠です。進出させたい店舗のニーズに合わせた受け皿づくりを行っています。  
私達のメンバーには建築、不動産、ビル経営、行政、文化、福祉と言った多方面の専門家が集まり、街で起きている様々な現象を的確に捉え、霞ヶ関、永田町を始め、全国の仲間と情報交換の中で、地元のシンクタンクを目指して福井にあった総合戦略づくりを行ってまいります。



- ★主な活動
- 1、まちなか情報センター事業  
まちなかでのまちづくりの情報を収集し、分析し、問題点を探ります。またフォーラム等で市民に問題提起し意見交換します。
  - 2、まちづくり支援事業  
各地域、商店街等でのまちづくりの運動を支援します。また行政、まちづくり福井(株)のまちづくり事業に協力します。
  - 3、まちづくり教育支援事業  
小、中、高校、大学等でのまちづくり学習、まちづくり活動を支援します。
  - 4、まちなか産業支援事業  
まちなかでの新たなニーズを探りコミュニティビジネスに結び付けます。
  - 5、まちづくり、NPOネットワーク事業  
まちづくり活動、NPO活動を行っている団体との交流を行います。
  - 6、会員相互の親睦



○30年後のビジョン：  
必ずしもそのままの形で存続することを望んでいない。NPOはそのミッションが達成できた時、目的達成のため有効な別的手段が見つかった時、解散するものだ。30年後もまちづくりに情熱をかける人達は必ず居ると思う。私達の思いを受け継いでいってもらえれば本望だ。



**道端 泰代** ビジネスの鍵委員会  
昭和41年12月24日生

勤務先 NPO法人ハートライセンス  
一言 皆様始めまして、いつも女性に囲まれて仕事をしているのが男性に感動いたしております。21世紀は女性の時代といふも語っている私ですので、元氣な女性会員をたくさん増やすお手伝いができれば、と思っています。今後共、宜しくお願い致します。



**山本 清美** ビジネスの鍵委員会  
昭和37年5月7日生

勤務先 日東 工業  
一言 時は人との出会いなり！YEGの皆さんとの出会いからまた新しい第1歩がスタートできました。人生は日々学びの連続。将来、夢のある素敵な町、豊かな町になっていくためのお役に立てるよう頑張ります。



**塩崎 恭一** 総務委員会  
昭和40年3月3日生

勤務先 (株)ホテルフクイキャッスル  
一言 新しい出会いと、自分自身の更なる向上を考えYEGに入会いたしました。家業は県庁東側お堀端にてホテル業をしております。お近くにお越しの際は、気軽に声をかけて下さい。



**五十嵐 靖央** ステップアップYEG委員会  
昭和38年3月16日生

勤務先 (株)冠婚葬祭福井互助センター  
一言 今年度入会致しました。冠婚葬祭業を営んでおります。今年41才本居の館パレット武生を経て、現在フランチャイジー勤務しております。福井市内での勤務が20年間のうち3年程しかなく、YEGには、自己研鑽はもとより商売での繋がりも求めたいです。今後とも「指導」鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



**久保 透** ステップアップYEG委員会  
昭和45年3月4日生

勤務先 (株)幸伸食品  
一言 永平寺町で、永平寺禅豆腐・禅「ごまどうふ」の製造工場と豆腐創作料理工場直営店（幸家）を経営しています。従業員35名の小さな会社ですが、独自性を高め、販路を全国へ展開しております。衰退していく豆腐業界の中で、夢と希望を持って若い人たちが働ける自慢の会社を作るのが夢です。



**酒井 正美** コミュニティの鍵委員会  
昭和42年2月17日生

勤務先 三谷コンピュータ株式会社  
一言 はじめまして。今年4月より入会させて頂きました三谷コンピュータ株式会社 酒井です。入会して福井豪雨の時などのYEGの皆様の精力的な活動に、圧倒され驚いています。今後少しでも皆様の活動の力になれる様頑張りたいと思います。よろしくお祈りします。



**松本 達也** ステップアップYEG委員会  
昭和39年2月16日生

勤務先 福井放送株式会社  
一言 青年部に入会して半年。YEG&イッチョライオドロツサの練習、大阪吹田での近畿ブロック大会などにも参加でき、大いに刺激を受けております。今後、新しいことにもチャレンジしていきます。



**山岸 範之** 総務委員会  
昭和47年12月10日生

勤務先 株式会社社林不動産鑑定所  
一言 福井に来て早一年半。福井に来て感じたこと、感じたこと、①食べ物が多い、②人がかわい、③いい人が多い、④福井弁、⑤注意深く聞かなくていい、⑥雪が多い、⑦朝雪掻き掃除のわびしい、⑧まの文化・風土の違いをまだ感じています。福井生まれでない、福井育ちではないですが、独自の観点から福井について一緒に考えていければと思っています。



**長谷村 浩** まちづくりの鍵委員会  
昭和42年9月26日生

勤務先 ごつつお屋はせじ  
一言 仕事柄なかなか参加は出来ないかもしれませんが、出来るだけ福井YEGの皆さんと色々な事にチャレンジしていきたいと思っております。顔を出したときは怖がらず話しかけて下さい。見た目ほど怖くありません。(笑) よろしくお祈りします！

編集後記

「7・18 福井豪雨」は、我々にとって忘れられない日となりました。自然の力の恐ろしさと人間の無力さをつくづく感じました。そんななか、我々に光を灯してくれたのが、ボランティアというコミュニティの存在です。人と人との結びつき、コミュニティの意義と重要性を再認識することができました。今回の会報「福居」は、その「コミュニティ」をテーマに編集しました。「コミュニティ」が、これからどう進化していくかはわかりませんが、30年後にもう一度、読み返して頂きたい一冊です。

(コミュニティの鍵委員会 石川 裕夏)